



2014-2015年度

広島北

ロータリークラブ週報



Rotary Club of Hiroshima North
2014年9月25日発行 Vol. 1407

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン 氏
国際ロータリーテーマ

LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを

■会長 河本 浩一 ■幹事 合田 尚義
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2014年9月25日(木) 第2196回
【第26回姉妹クラブ提携継続調印式&歓迎懇親会】
ロータリーソング 「それでこそロータリー」
来客紹介 ローター-家族親睦委員会
会長挨拶 広島北RC会長 河本浩一
京都伏見RC会長 一瀬 倫 様
第26回姉妹クラブ提携継続調印式
幹事報告
委員会・同好会報告
ニコニコ箱

前回例報告 2014年9月18日(木) 第2195回

ロータリーソング 「われら広島北ロータリー」
来客紹介 ローター-家族親睦委員会
表彰
会長時間
幹事報告
委員会・同好会報告
ニコニコ箱
卓話時間 『野球による青少年育成』
広陵高校野球部監督 中井哲之氏

新会員推薦認証プログラム

前年度より始まった新会員の推薦者を表彰するための新しいプログラムです。

石田平二会員・坪内昭吉会員・古谷敏明会員(1名の新会員を推薦)
粟屋充博会員(2名の新会員を推薦)
山坂哲郎会員(3名の新会員を推薦)



会長時間

会長 河本 浩一

皆様今日は。ご来会のお客様、会員一同心より歓迎申し上げます。先ず来週は、京都伏見RCとの隔年毎のシャル訪問による第26回の姉妹クラブ提携継続調印式が当クラブ主催で行われます。開催に際し、姉妹クラブ友好特別委員長の久保さんを中心に、素晴らしい行事が計画されて準備万端整い、京都伏見RCから多くの会員を迎えることになっています。当クラブの会員におかれましても多数の参加を願い、ローター-の友情の輪と絆を更に深め、有意義な例会になるよう皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

さて、多雨の極まった夏は過ぎ、静かに夜空を眺めるにいい季節となりました。こんな時こそ童心に戻り、山吹色の輪のなかで餅をつくウサギをしみじみと眺めてみるのも一興かと存じます。先週8日は中秋の名月でした。もう名月？と思う人もおいででしょうが、10月に入ってやっとめぐる年があれば、9月初旬早々に訪れる年もあります。これだけ早いのは38年振りだそうです。楕円軌道をまわる月の位置が、本年は地球に近かったため、いつもより大きく見える「スーパームーン」の一際美しい姿を雲間に見せていました。

少し前までは、月見台などで日常的に月を愛でる習慣がありました。月を意識することで宇宙への距離がぐっと近くなります。さらに月光は夜の陰影を濃くしますから、想像や思念、感謝の気持ちなど人と人を結ぶ感性も鋭くする一方で、月光を一杯に浴びて月の満ち欠けを見ていると、行きつ戻りつの人生模様のなかに名状しがたい至福のひと時へと誘ってくれます。

井上ひさし氏の芝居「芭蕉通夜船」に、次のようなセリフがあります。「なぜ月はあるにも美しいのだろう。なぜだ？月に持主がいらないからだろう」と。国や組織や個人がその所有権を競い合う、—そんな人界の欲望を、月世界に持ち込むなかれ！と一蹴しているようです。

そこで、秋の夜長のよき季節、インフォーマル・ミーティングならぬムーンライト・ミーティングでローター-談義に花を咲かせてみてはどうでしょうか。都会の喧騒から離れ、心象風景という月を愛でる気持ちになれば、人間の独善の愚かさが洗われるような気分になります。月の光にたゆたう月光欲は、地上にいながら宇宙の深遠へととけゆくような気分になります。本日は秋の夜空に思いをはせながら、会長の時間とします。

幹事報告

幹事 合田 尚義

*次週は京都伏見RCをお迎えて「第26回姉妹クラブ提携継続調印式」を開催します。昼の例会を夜間に変更して開催しますので、お間違えのないようお願いいたします。

*米山記念奨学会より「第41回米山功労クラブ」の感謝状が届いております。

*新会員候補者書類(BOX配布物)

委員会報告

姉妹クラブ友好委員会 越智副委員長

次週、京都伏見RCとのエクスカッションについて

IM実行委員会 山坂実行委員長

例会終了後、第4回IM実行委員会を開催します。

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【来客出宝】

広島城南RC 田中様 ☆ ①広島北RCの皆様には、第96回全国高等学校野球大会の出場の際に、ご支援・応援を頂きました事、お礼申しあげます。ありがとうございます。

②本日、卓話に本校教諭の中井哲之硬式野球部監督をお招き頂きますこと、感謝申しあげます。

【自主出宝】

河本会員・中山会員・合田会員・二井本会員・佐々木会員

中井様、本日は当クラブにお越しいただきありがとうございます。卓話楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。

山本(忠)会員 ◆ 中井監督、今日のご多忙の中、当クラブに来て卓話をしてもらうことを非常に楽しみにしています。生徒の教育、それに野球部員140名の指導等大変ご苦労さんです。子ども達が将来社会に出て皆さんから好かれ期待されるよう育て下さい。今日はありがとう。

下前会員 中井君、今日の卓話よろしくお願ひします。2回目の同級生より。

上河内会員・越智会員 中井先生、本日は卓話ありがとうございます。よろしくお願ひします。

神農会員 ◆ 先日の多打喜会9月例会では、過分なるハンデーのお陰で優勝することが出来ました。喜びとお詫びを込めて出宝致します。

丸本会員 9月7日の多打喜会で3アンダーで2位になりましたので、3千円出宝します。

畑会員 先日は妻の誕生日に素敵な花を贈って頂きありがとうございました。

当日計 23,000 円(内、web5,000 円) 累計 377,000 円
★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『野球による青少年育成』

広島高等学校
野球部監督 中井 哲之 氏



私は本当に運だけで生きているような男で、本当に人に恵まれています。今は山本忠男広島野球クラブ会長はじめ、うちの田中理事長にも恵まれて、好きな野球が、好きな子どもたちと、思いつ

きり野球ができております。

今日どのような話をすれば皆さんに喜んでもらえるかを考えておりましたが、越智さんにお聞きしたところ、金本知憲の話がいいということで、まずは金本の話からします。

金本なんですけど、まさかプロに行くとは思っていませんでした。むちゃくちゃ下手くそで、センスがなくて、体が硬くて、どうしようもできない選手でした。あの選手がまさか大学に行って野球をして、プロ野球選手になるとは、私はまったく思いませんでした。しかし彼は努力だけは、すごくしていたように思います。そのとき私はコーチをしていましたし、寮監もしていたんですけど、10時半完全消灯という決まりがあるんですが、彼は隠れてバットを振っていました。本来なら完全消灯であれば、部屋に呼んで

怒るところですけども、隠れてわからないようにバットを振っていたので、見て見ない振りをしていて、そういう日々を過ごしていました。なので、金本が練習試合でヒットを打っても、公式戦でヒットを打つと涙が出るぐらいうれしかったことを覚えています。

それで彼がプロ野球に入って、ずっと今頑張ってくれて、今、引退をしたわけですけども、必ず広陵高校が甲子園に行くときには、いの一番に声をかけてくれて、先生、何かをさせてくださいと、後輩のために何かをさせてくださいと、そんなことを彼は言ってくれるわけです。

当然、その金本が全盛期のときには、二岡、福原という、巨人、阪神で頑張っていた選手もいたもんですから、ほんじゃあ、どんなもんしてくれるんやって言うと、プロ野球選手のなかには、18人だったら18人のものしかししないプロ野球選手もいるんですけど、例えばスパイクを用意するだとか、帽子を用意するだとか、シューズを用意するだとかということもあるんですけど、やはり広陵の選手です、金本は全選手にしますと、させてくださいと。

その当時は野球部に150人いたとしたら、150人分ぐらい記念Tシャツをつくってくれたり、記念のアンダーシャツをつくってくれたりするようなことをしてくれていました。

もちろん二岡も福原もしてくれるんですけども、金本のプライドがありましたもんですから、二岡と福原の倍ぐらいさせてくださいと。二岡と福原が1人1枚ずつといっても100枚になるわけですよ。金本は、それ掛ける2なので、200枚ずつぐらいをつくってくれて、普通の顔をしてくれているような彼でした。

しかし、高校時代の彼を見てみると、まさか本当に彼がプロ野球選手になって、あのような世界記録を生み出すような彼と、僕はまったく信じていませんでしたし、まさかのまさかです。彼より上手い選手はたくさんいます。でも今のところ、広陵高校では彼ほど実績を残した選手は一人もいないということを考えると、彼のお父さん、お母さんがどんなに彼を育てたのかなと、どんな厳しい、愛情を持って厳しい育て方をされたのかなというふうなことは感じます。本当に素晴らしい彼で、彼も縁起をすごく担ぐ選手だったので、カープのときも阪神のときも元旦から、そこにあります「トレーニングクラブ・アスリート」で、元旦から練習をしているというふうなことは常々聞いていましたし、必ずオフになると一年に一回は広陵に顔を出してくれて、技術を教えるわけにはいかないんですけども、後輩に心構えを教えてくださいました。

それも、時間がないんですよ、時間がないんですよと言いながら、15分しかありませんとか言いながら5時間ぐらいおって、おまえ、ええかげんに帰れやみたいな、そんな彼だったので、できれば広陵からなかなかプロ野球界の監督が出ていないので、カープか阪神で監督をしてくれたらなというふうなことを思えるような金本なんで、ぜひ、ご鼻根にしてやってください。広陵の次に、よろしくお願ひします。これが金本の話です。

それで、プロ野球選手ばっかりの話をすると、一番私が感動したのは、巨人からいろんな出来事があった、日本ハムに行った二岡です。これが僕のなかでは一番素晴らしい選手でした。彼は、秋の中国大会、甲子園を目指す大会の準決勝のときに、お父さん、お母さんが三次から県営球場に応援に来るときに、乗っていた車が後ろから追突をされて、事故に遭いました。試合の途中だったので、部長のほうに連絡があって、お父さんは意識不明だと。お母さんはなんとか意識はあるけれども、ちょっと長い入院になりそうな病状だということで、試合が終わるまでは黙っていました。

これを勝ったら中国大会だったという試合だったので、黙ってその試合は過ごしました。おかげさまでその試合は勝てたんですけども、それを二岡に言うと、二岡が、先生、少しの時間三次に帰らせてくださいと、彼は三次出身だったので、三次に帰らせてくださいということでした。

彼は、お父さん、お母さんが入院している病院に行きました。



彼いわく、少しということはお父さんが危篤で重体だったんですが、少しお父さんとお母さんの顔を見たら、甲子園にかけろの思いとか、自分がチームの中心選手だったので、寮に帰ってこなくちゃいけないという強い意志を持っていたんだと思います。

それで私のほうに連絡があったから、お父さんのところに付いとけ。お父さんとお母さんのところに付いときゃいいからって。あとは、明日の試合は取りあえず準決勝に勝つたので中国大会には行けるから、心配せんでもいいから、中国大会で勝てばいいので、帰ってきて帰ってこなくてもいいから、おまえに任すって言ったんです。

はい、わかりましたってことで、呉の二河球場で次の日を迎えました。結局、二岡は寮には帰ってきませんでした。二河球場での広商との決勝戦に、二岡は明らかに一睡もしていない状態で、きっとお父さんとお母さんの看病をしていて、お父さんは亡くなりそうな雰囲気でお母さんはとても話ができないような状況だったので、ずっとそばに付いてみたいんです。

でも彼は、彼の親戚に頼んで二河球場に来ました。私は、彼の性格は十分わかっていたので、きっと彼は一睡もしていないだろうし、ご飯も食べていないだろうなということが予測できたので、それで私はユンケルと、今で言うウイダーというのを何個か買って、おまえ、どうせ寝ていないんだろ。はい、一睡もできませんでしたって。食べていないんだろ、食べれなかったらどうかって、それを与えたことをよく覚えています。

でもチームメートはその状況をよくわかっていて、二岡のためにもっと、二岡のお父さん、お母さんのためにもというような気持ちで、いつもよりすごくチームが一つになって頑張ってくれました。その試合は、結局大差で広商さんに勝たせていただきました。最後には二岡が、ピッチャーとサードもしくはピッチャーとセンターをしていたんですが、お父さんにラジオを聞かせていますと、お父さんの枕元にラジオを置いてきたんで僕に投げさせてください、ということをお父さんのところに言いに来たんで、じゃあ投げろと言って、一睡もしていない二岡に投げさせたのをよく覚えています。3者連続三振でした。今まで投げた二岡の球が一番気持ちが入っていて、一番球が速かったように思います。

そういうなかで中国大会を迎えるわけですが、県大会から中国大会のあいだが約1カ月間あるんですが、二岡の父はこの2週間後に亡くなってしまいました。野球部全員で二岡の自宅を訪ねて、葬儀に出ました。お父さんは、すごくなんか優しい顔をして眠られていたように思います。

二岡にも、おまえがやる気になって、心が落ち着いたら練習に帰ってこいって言った言葉をよく覚えているんですが、葬儀が終わって、その次の日にはもう帰ってきて、私が見てきたなかでは、この子以上に練習した子って見たことがありません。

中国大会の1回戦のときに、練習のし過ぎで、第一肋骨が第1回戦のときに折れてしまいました。折れるとかヒビが入ってしまって、すごく痛そうにしていたので岡山の病院に連れて行くと、医師から命の保証はしないって言われたんですね。

多少オーバーな言葉だったとは思いますが、思いっきり投げたり、思いっきりバットを振っていたら、肺に刺さったときには責任が取れませんか、絶対にやめてくださいと、試合に出すことは不可能ですからというふうなことを言われて、病院から帰ったことをよく覚えています。

岡山県営球場での試合でお母さんに、うちの部長のほうから彼の症状を、医師のほうから言われたとおりにちゃんと伝えたら、二岡がスタンド入りするときにちょうど柵があったんですけど、お母さんが柵から、すごく常識のある強いお母さんだったんですけど、その柵を強く持って、こういうふうによく持って、智宏っていいので、トモー、トモーってお母さんが叫ぶんです。いつもはそんなお母さんじゃないのに、トモー、トモーって叫ぶんですね。

二岡は知らん振りしながらベンチ入りをしようとしていたんですけ

ど、あまりにもお母さんの大きなジェスチャーと大きな声で、二岡がお母さんに言ったんです。みっともないことするなやって。俺なんかどうなってもええんじゃないかって言って。チームが勝つことが最優先だろって。

二岡が、まったく親に敬語を使わない。人の優しい、母親と父親に対してすごく優しい子が、初めて母親に強い口調で、俺なんかどうなってもええんじゃないかって、チームが勝つことが最優先だろって、俺なんか応援せんでええんじゃないかって、野球部を応援せえって、強い口調で、二岡が母親に言いました。そうすると母親は、本当にドラマで見るように崩れていかれました、格子を持って、ガタガタガタガタって、というふうなことがありました。

でも、その場面はたまたま、今、阪神で頑張っている福原がエースで二岡が4番でというかたちだったんですけど、福原は肘の手術をしてしまっていて、十分じゃありませんでした。でも中国大会の1回戦は、すごいいいピッチングをしてくれて、勝つことができていたんです。

福原の肘も限界が来て、うまくはいきませんでした。

そうすると二岡が2番手のピッチャーで、一番速い球を投げたし、すごい可能性を持っていたんです。ピッチャーだったので、期待はしていましたけども、医師に命の保証はしないって言われた僕は、当然試合に使うわけにはいかないし、いこうとも思っていないませんでした。

そうすると部長のほうから、僕を肘でこう押すから、監督、監督って言うから、ブルペンでバットを見ると、二岡がブルペンで投げているんですね、二岡がブルペンで投げているんですよ。

僕は二岡を一度も怒ったことがないんですね。何をしても本当に完璧主義者というぐらい真面目で、誰よりも練習するし、勉強ももちろんできていたし、部屋の一つ一つを見て回っても、野球の匂いしかならないようなやつだったんです。さすがにブルペンで思いっきり投げているのを見て、呼んでこいってというふうなことで呼んできて、ここ座ってけって言って。おまえの肘まで壊して、肩まで壊して、野球人生まで壊して、俺は甲子園なんか行きたくない、行く必要もない、ここに座ってけって言って。

彼は僕に怒られたことがないわけですよ。でも彼は、はいって言いながら、ちょっと座ったら、また投げに行くんですね。だからこそ、たぶんプロ野球の世界でも、あのぐらいの記録が残せたというか、そういう選手であったように思います。

だから、うちはプロ野球選手がたまたま今現在多いんですけど、野球だけ、はしていません。必ずプロ野球選手もオフには学校に顔を出してくれて、私にも挨拶をくれますけど、もちろん私だけじゃなく、今いらっしゃる理事長のところにも、理事長っていうふうに平気で理事長室を訪ねていくし、担任だったり、いろんなお世話になった先生のところに挨拶に行けるんです。

二岡はいろんな問題があって日本ハムに行くようになってしまったんですけど、彼のためを思って言うと、彼にも言い分がたくさんあったと思うんです。でも彼は、言いたいことはひと言も言いませんでした。

正式に日本ハムに移籍が決まった次の日には、広陵高校に来ていました。丸坊主にして、スーツを着て、ネクタイをして、先生、広陵に泥を塗って申し訳ございませんでしたって言って。そういうやつが、二岡でした。

だから僕の野球人生のなかで、二岡のアクシデントがあったとはいえ、一番その高校時代のときから真っすぐに生きて、広陵の魂を持って頑張ったのは二岡じゃないのかなと、日本ハムに行くようなことになってしまったんですけど、そういう思い出がすごくあります。

また、その同級生の福原という選手ですけど、福原はとってもプロへ行けるような選手じゃなかったんですけど、その当時、JR西日本さんが、プロ待ちでオクケーだから、思いきってやってくれたらいいからということで、たまたま東洋大学が2部リーグで、お世話



になった2部で、彼は1部で1勝か2勝しかしていないんです。2部で、どうせ俺、就職先決まったし、イチかバチかやったら、2部で6勝か7勝挙げて、1部に引き上げて、1部残留を決めて、阪神にドラフト3位で上がったということなんです。でも彼は二岡とはまったく違って、先生、プロに入れてラッキーですって。僕、たぶん3年でクビなんで、でも適当に頑張ります、みたいな、こんな子だったんですよ。

でもこんな子が、今回の広島の大規模な土砂災害があったときに、いの一番に電話してきてくれるんです。先生って言って、家は大丈夫ですか、野球部員は大丈夫ですか、広陵の生徒は大丈夫ですか、というのを、いの一番に電話をしてきてくれて、何か僕ができることがあったらなんでもさせてください、というふうなことが言えだしたと思うんです。

ということは、僕が言いたいのは、少し人間、余裕ができると、周りが見え始めるのかなというふうには感じます。

だから、福原というのは本当に二岡と真反対で、小学校、中学校、高校と全部一緒なんですけど、真反対なんですけど、すごくそんなところがあって。二岡が引退をほのめかされたときにも、福原が一番に電話してくるわけです、先生って。トモどうなるんですかね、トモどうなるんですかね、今年で引退ですかとか、引退した後の職業はどうなるんですか、どうなるんですかって。

俺が知るわけないだろうって、おまえら小学校から、いや、おまえら幼稚園から高校まで一緒なんだろうって、一番おまえが聞きたいんなら、おまえが一番に聞けやっというふうなことが言えたのが福原でした。

だから、若さでは何もできないことがあるのかなというふうにも感じたりはしますが、私が今、預かっているのは16歳から18歳の子どもたちです。年を取るごとにいろんな経験をして、いろんなかたちで大人にはなっていくんだと思うんですが、今、私が預かっているのは16歳から18歳の若者です。

それを私がどういうふうにいるかという、今の私が16歳から18歳の子どもたちを怒るのは、すごく簡単なことだと思います。でも、僕も16歳がありました。僕も18歳がありました。そのときに、僕はどうだったかなとか、俺はどうだったかなということを思いながら、自分の16歳より、18歳より素晴らしかったら、すごく褒めてやろうと思うし、僕の16歳、18歳より駄目だったら、本気で怒ってやろうと思います。

今、たぶん一番足りないことは、本気で生徒とぶつかり合える、うちの理事長がここにいらっしゃるから言いにくいんですけど、本気でぶつかることができる教員が少ないんだと思います。

教員は、8時に来て5時に帰れます。本気でぶつかると、今、多様な親がいらっしゃるので、すごく困ることもあります。見て見ぬふりをして、8時に来て5時に帰ることも可能です。でも、自分に思いがなくて、子どもの将来のことを考えると、8時には行かれませんが、5時には帰れません、日曜日でも土曜日でもいません。

だから僕はよく言われます、趣味なんじゃろって。だから、本当に趣味です。子どもを育てるのが趣味ぐらいの気持ちじゃないと、たぶん高校野球の監督はできないのかなと思っています。

ですから何が一番言いたいのかというと、子どもがいるからこそ監督ができますし、この監督がおるから、俺らも好きな野球ができるというふうな信頼関係を持てる広陵でありたいし、そういう監督でありたいと思っています。

本当につまらない話でしたが、ありがとうございました。それと、皆さん母校がありますけれども、母校の次に広陵高校をよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

ロータリーの基本理念

100年以上にわたり、私たちはロータリーの価値観と伝統をあらゆる基本理念にした画って行動して来ました。「ロータリーの目

的」「四つのテスト」「5大奉仕部門」は、奉仕(Service)、親睦(Fellowship)、多様性(Diversity)、高潔性(Integrity)、リーダーシップ(Leadership)という私たちの中核的価値観をあらわしています。

■ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

■四つのテスト

ロータリアンが生活や仕事の場面で常に覚えておくべき4つの問い、それが「四つのテスト」です。政治や宗教に関係なく、すべての人びとの倫理的指針となるこのテストは、100カ国語以上に翻訳されています。

言行はこれに照らしてから

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

■5大奉仕部門

私たちは、クラブ活動の土台となる5つの奉仕部門を通じて、地域社会や海外での奉仕に力を注いでいます。

クラブ奉仕は、会員同士の関係をはぐくみ、積極的な会員増強計画を実行して、活気あるクラブづくりを行うことです。

職業奉仕は、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てることです。詳しくは、「職業奉仕入門」と「行動規範」をご参照ください。

社会奉仕は、すべてのロータリアンが、地域の人びとの暮らしを豊かにし、より良い社会づくりに貢献することです。詳しくは、「活動する地域社会：効果的なプロジェクトのための指針」と「社会奉仕に関するプレゼンテーション」(パワーポイント資料)をご参照ください。

国際奉仕は、国際的なプロジェクトでボランティアをしたり、海外のパートナーとの協同活動を通じて、平和と相互理解を推進することです。

青少年奉仕は、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)、ロータリー青少年交換などを通じて、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することです。

My Rotaryより抜粋

■出席報告 出席委員会

2014年9月18日(木) 会員数 85名

出席 64名 欠席 21名

来賓 1名 来客 1名

9月4日例会出席率 100%

■来客紹介 ロータリー家族親睦委員会

中井 哲之 様(卓話来賓)

田中 清峰 様(広島城南RC)

■次回例会 2014年10月2日(木) 12:30~

卓話『新会員卓話』 竹内 剛 会員

食事 和食